

11月4日(金): 午後から三々五々参加者が集い、最終的には総勢40余名となり、近年にない盛会となった。夕食後フィルムナイトと称して、各自持参したフィールドや職場や研究室の近況を示すスライドで簡単な自己紹介を行った。これはみんなの親睦をはかるうえで大変効果もあり楽しくもあった。

11月5日(土): 午前9時から夕方6時まで、Dr. Noakesの特別講演をはさみ、“日本海をめぐる魚類相”のテーマのもとに研究発表を行ない活発な論議があった。

1. 日本海の魚類相(サバ型魚類を中心に)
中村 泉(京大水実)
2. サクラマス(研究の現状と問題点)
岡崎登志夫(養殖研)
3. 日本海西部沿岸海域におけるトビウオ類の出現状況
増田恵一(兵庫県水産事務所)
4. 対馬浅茅湾の魚類
金山 勉(総合科学)
5. Behavioral genetics of fishes
D. L. Noakes(University of Guelph)
6. ハオコゼ類の卵巣成熟リズム

- 西 源二郎・徳武浩司・今井啓吾(東海大海博)
7. 山陰海岸(但馬)地方で確認されたフリソデウオ科魚類について
高田厚志(日和山水族館)
8. 中新世淡水魚類化石の周日本海の分布
友田淑郎(前国立科博)
9. 金沢市犀川の大桑層(鮮新世末)の耳石群集
大江文雄(愛知県教育センター)
10. 若狭湾の魚類相について
谷 修一(大阪府立門真高校)

発表終了後、午後6時半から懇親会があり、久しぶりに顔を合わせた魚屋達の魚談議はとどまるところを知らぬかの様だった。

11月6日(日): 午前9時から競の始まる、見学にはもって来いの京都府漁連西舞鶴魚市場へ車を連ねてほぼ参加者全員で見学に行った。午後にも残って水産生物標本館の見学や魚類標本調査をする人も数名あった。

“ごり集会”や淡水魚自然史研究会などとの合同開催や来年度以降の本会の夏季開催も検討された。

(中村 泉 Izumi Nakamura・
細谷和海 Kazumi Hosoya)

会 記・Proceedings

1989年度秋季日本魚類学会シンポジウムのお知らせ	休 憩 (10分)	14:35
日 時: 1989年10月7日(土) 10:00-17:30	7. ウミタナゴ科魚類の交尾生態 櫻井 真(九大農)	14:45
場 所: 宮崎大学農学部講義棟 109号室	8. 汀線と流れ藻の仔稚魚の生態 千田哲資(長大水)	15:20
テーマ: 魚類の産卵行動と仔稚魚の生態	9. 陸圏と水圏の間とくに河口域の仔稚魚の動態 木下 泉(西日本科学技術研)	15:55
開会の挨拶 上野輝彌(日本魚類学会会長) 10:00	総合討論	16:30
講 演	座長 千田哲資・四宮明彦・ 桑村哲生・内田詮三	
1. 魚類の授精様式・婚姻形態と子の保護 桑村哲生(中京大教養) 10:05	閉会の挨拶 赤崎正人(宮崎大農)	17:30
2. 板鰓類の繁殖生態と飼育適応度 内田詮三(沖縄記念公園水族館) 10:40		
3. ゴンズイの産卵と保育行動 神田 猛・溝口雅彦(宮崎大水実) 11:15		
昼 食 (60分) 11:50		
4. カワズメ科魚類の繁殖行動と場所利用 柳沢康信(愛媛大理) 12:50		
5. オオニベの産卵と仔稚魚の成長 赤崎正人(宮崎大農)・ 那須 司(宮崎県栽培漁業センター)・ 滝川勇嗣・戸田修一(宮崎大農) 13:25		
6. メバル・カサゴ類の交尾生態 四宮明彦(鹿大水) 14:00		

英文添削の紹介

英文で論文を書くのは大変なことです。英文添削をしてくれる友人や知合いが周囲にいない場合には、会員の皆さんも苦勞しておられることでしょう。特に、論文の場合には専門用語が用いられるため、通常の英文添削では不十分なこともあります。この度、ニュージーランド

国立博物館の Dr. Graham S. Hardy が、9 月末まで滞在することになり、英文添削を有料で行って下さることになりました。彼は分類学が専門ですが、魚類に関する論文なら添削してくれるそうです。

編集幹事会としても、推薦できる人ですので、英文添削をご希望の方は、下記へ論文をお送り下さい。料金は、タイプ用紙 1 枚 (A4, ダブルスペース) につき、1,000 円です。

〒562 箕面市箕面 3-10-2 松風荘 101

伏田様方

グレアム・ハーディー

(KM)

1988 年度第 7 回役員会

1989 年 1 月 13 日 (金). 於国立科学博物館分館.

出席者: 上野, 落合, 本間, 新井, 沖山, 石山, 阿部, 中村, 谷内, 富永, 佐藤, 佐野, 馬場, 藤田, 野嶋 (事務センター).

1. 前回議事録 (1988 年 12 月 16 日) の確認.
2. 報告事項. 編集: 35 巻 4 号は 2 月 15 日発行の予定であったが、少し遅れている。手持ち論文は 70 編.
3. 1989 年年会について. 評議員会, 総会は第 1 日 (3 月 31 日) に、編集委員会は第 2 日 (4 月 1 日) に行う。講演要旨代は 1,500 円で参加費は無料。懇親会は第 1 日の 6 時からサンパークホテルで行い、会費は 4,000 円の予定.
4. 1988 年度決算と 1989 年度予算について. 会費の納入は比較的順調。1988 年度の会誌発行費が 1987 年度より 130 万円程度増加 (12 月 31 日現在)。このままでは、2 年後には会費の値上げ、超過頁代の値上げ (著者負担増)、会誌の総頁数の制限などの検討をしなければならなくなる。今後の当面の方針として、予算の範囲以内に抑えるように編集で心がけることにした。1989 年度予算は前年度予算をもとに組む.
5. 学会賞について. 学会賞検討委員会委員長 (落合氏) から日本魚類学会奨励賞規定案と奨励賞運用内規案が会長に答申され、役員会に提示された。この案について評議員会で検討することになり、全評議員にあらかじめ配布することとした。

1988 年度第 8 回役員会

1989 年 2 月 9 日 (木). 於国立科学博物館分館.

出席者: 上野, 落合, 新井, 佐藤, 本間, 阿部, 黒沼, 中村, 谷内, 富永, 佐野, 丸山, 藤田, 野嶋

(事務センター).

1. 前回議事録の確認.
2. 報告事項. 編集: 35 巻 4 号は 3 月 10 日発行の予定。手持ち論文は 76 編。会計: 雑誌発行費の割合は 50.7% で例年とほぼ同じだが、絶対額が約 100 万円増加。会費の納入は順調で、次年度繰越金は前年度より 20 万円程度増加の見込み。庶務: 会費 2 年間滞納者数 (1989.1.31 現在) は正会員 33, 賛助 2, 団体 4 となっているので納入の呼びかけに協力をお願いしたい。日本科学情報センターからの和文抄録の利用依頼を了承。学会会議水産研連では活動資金の捻出方法について検討中.
3. 1989 年度年会の評議員会, 総会の議題について検討した。ポスターセッション発表者のための紹介時間 (5 分程度) をもうけることが可能ならば、プログラムをそのように組み直すことにした。講演とポスターセッション (またはデモンストレーション) を併用する発表方法について今後検討する.
4. 1988 年度決算・1989 年度予算案について検討した.
5. 魚類学雑誌の発行年を新年度から西暦表示にすることとした.

1988 年度第 9 回役員会

1989 年 3 月 17 日 (金). 於国立科学博物館分館.

出席者: 上野, 落合, 新井, 佐藤, 本間, 阿部, 黒沼, 中村, 谷内, 馬場, 富永, 松浦, 佐野, 石山, 丸山, 藤田, 野嶋 (事務センター).

1. 前回議事録の確認.
2. 1989 年度年会の会場の設営の打ち合せ。評議員会, 総会の議事, 予算案, 決算案について最終的に決定した。淡水魚保護協会からの“長良川に生息するサツキマスの絶滅防止のための要請”に対して、長良川河口堰建設中止の要望書を建設省に出すことに決め、評議員会に間に合うように要望書の文案を作成することとした.
3. その他.

1989 年度年会

1989 年度年会が、1989 年 3 月 31 日 (金) - 4 月 1 日 (土) に国立科学博物館分館において開催され、以下の会合があった。

1. 1989 年度第 1 回評議員会

3 月 31 日 11:30 - 12:50. 40 名の評議員と 2 名のオブザーバーが出席し、仲谷一宏氏を議長に選出した。議題は以下の通りであった。1. 会長挨拶。2. 1988 年度

会務報告. 3. 1988 年度編集委員会報告. 4. 1988 年度決算報告. 同監査報告. 5. 1989 年度予算. 6. 日本学術会議に関する報告. 7. 学会賞について. 8. その他.

以上の議題のうち, 1988 年度決算案, 1989 年度予算案については原案どおり承認された. 7 の学会賞については, 1988 年度第一回評議員会から諮問を受けた後の, 役員会などにおける審議過程の概要が先ず会長から報告された. 続いて, 会長の委嘱によって設けられた学会賞検討委員会における審議過程が落合 明委員長から報告され, 授賞を実施する場合のモデルとして受賞資格を 40 歳以下にしぼった奨励賞の原案が提示された. この原案をもとに, 現時点で授賞を実施することの必然性や, 賞の性格, 対象者の年齢, 予算的な裏付けなどについて長時間にわたる討論が行われたが, 結局時間切れで継続審議となった. なお, 次回の評議員会までに授賞実施の是非の判断材料をもっと充実させるとともに, この問題に関する会員の総意についても調査を行うことが望ましいなどの意見が出され, 役員会で検討を続けることになった. また 8 のその他として, 1989 年度の秋のシンポジウム世話人代表赤崎正人氏からテーマ「産卵行動と仔稚魚の生態」と準備の進捗状況について報告があった. また, 淡水魚保護協会木村英造理事長から本会に要請のあった長良川河口堰の建設中止を求める声明について, 落合 明副会長から役員会の承認を経て現在文案を作製中であることが報告された. さらに本会が後援した「イワナ及びサクラマス (ヤマメ) に関する国際研究会」について, 国外からの 54 名 (13 カ国) を含む約 150 名の参加を得て無事終了したことが組織委員会山崎文雄事務局長から報告され, 本会の協力に対する謝辞が述べられた.

2. 1989 年度第 1 回総会

3 月 31 日 13:00-13:30, 出席者 33 名. 議長に尼岡邦夫氏を選出し, 以下の議案が報告された. 1. 会長挨拶. 2. 1988 年度会務報告. 3. 1988 年度編集委員会報告. 4. 1988 年度決算報告・同監査報告. 5. 1989 年度予算. 6. 日本学術会議に関する報告. 7. 学会賞について. 8. その他.

3. 研究発表会

会期中, 第 1 会場, 第 2 会場, 展示発表会場に分かれて研究発表が行われた. 今回は初めての試みとして, 展示発表者が 1 題につき 3 分間の枠内で第 1 会場で発表要旨を講演する機会が設けられ, 朝一番のプログラムであったにも関わらず多くの参加者を得た. 研究発表は下記の 72 題で, 参加者は延べ 220 名であった.

Papers Presented at the XXIInd Annual Meeting, 1989 (March 31 to April 1, 1989)

- Tomoyuki Nakamura, Takashi Maruyama and Eikichi Nozaki: Population growth of *Iwana Salvelinus leucomaenis* (Pallas) after the recent introduction of a fishing prohibition under the artificially destroyed stream condition.
- Nobuhiro Suzuki and Sang-Rin Jeon: Egg and larval development of the two bitterlings, *Acheilognathus* (= *Tanakia*) *limbatus* and *A.* (= *T.*) *signifer*, from Korea.
- Yoshio Tomoda and Haruto Kodera: Comparative morphology of the genus *Carassius* from Lake Biwa.
- Takeichiro Kafuku: Intestinal coiling pattern of *Garra* collected in Nepal, Iraq and Ethiopia.
- Takanobu Ota, Tomoki Sunobe and Akinobu Nakazono: Reproductive behavior and female mate choice in *Istiblennius enoshimae* (Pisces: Blenniidae).
- Tetsuo Yoshino and Yoshimasa Aonuma: Two undescribed gobiid fishes of the genus *Amblyeleotris* from the Ryukyu Islands.
- Kaoru Yamanaka, Atsushi Suzuki and Yasuhiko Taki: Sexual dimorphism of African bichirs in the family Polypteridae.
- Kazuhiro Nakaya: Taxonomy of long-snout *Apristurus* species from Western Pacific.
- Hideki Nakano and Makoto Tabuchi: Occurrence of the cookiecutter shark *Isistius brasiliensis* in surface waters of the North Pacific Ocean.
- Kazunari Yano and Kazunari Kugai: Biological aspects on genus *Centrophorus* collected around the Okinawa Islands.
- Yoshio Fukuda and Hiroyuki Mishima: The morphology of late Eocene tooth plate of duckbill ray (*Myliobatis* sp.) from the Barnwell Formation, Twiggs County, Georgia.
- Yoshitaka Yabumoto: Early Cretaceous osteoglossiform fish from Kitakyushu, Japan.
- Yasuyuki Kitagawa and Muneo Okiyama: Observations on the morphology of four species of family Opisthoproctidae (Argentinoidei) from Japan.
- Kenkichi Fukurotani and Ferenc I. Harosi: A classification of cyprinid fishes by UV sensitive neurons.
- Tsuneo Nakajima: The changes of cyprinid fauna in Paleo-Lake Biwa.
- Takashi Urano: An undescribed catfish of the genus *Corydoras* (Callichthyidae) collected near São Paulo in Brazil.
- Kiyoshi Fujita: Taxonomic position of *Bathysaurus agassizi* (Pisces: Bathysauridae).

- Seishi Kimura and Kiyoshi Suzuki: First record of *Coccorella atrata* (Myctophiformes: Evermannellidae) from Japan.
- Tsutomu Haryu: Morphological difference of two types of the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus aculeatus* from Lake Harutori in Kushiro, Hokkaido.
- Osamu Okamura, Kazunori Sakamaki and Kenji Mochizuki: A revisional study of the genus *Halieutaea* from the western Pacific Ocean.
- Minoru Ishida: Relationships of the scorpaenine and pteroine fishes.
- Gento Shinohara and Kunio Amaoka: Phylogeny of the hexagrammid, zaniolepidid and anoplomatid fishes.
- Hiroshi Senou and Muneo Okiyama: Phylogenetic interrelationships of the mullets (Pisces: Mugilidae).
- Izumi Kinoshita and Kalala Kabamba Thibangu: Morphologies of the larvae and juveniles of four centropomid fishes from the northwestern part of Lake Tanganyika.
- Yoshiaki Tominaga and Keiichi Matsuura: Percoid fishes with posteriorly extended gas-bladder.
- Kunio Sasaki: Comments on the relationships of the Haemulidae and its relatives.
- Masahiro Aizawa: Two undescribed gobiid species of the genus *Luciogobius* from Sagami Bay.
- Muneo Okiyama: Possible mimicry of acanthurid larvae as inferred from the specialized morphology.
- Yoichi Tsukamoto, Atsushi Fukui and Muneo Okiyama: A pelagic larva of the genus *Parabothus* (Bothidae) collected from Sagami Bay.
- Kunio Amaoka and Hisashi Imamura: On the two undescribed species of the bothid flounders from the Indian Ocean.
- Kazuo Sakamoto and Teruya Uyeno: Middle Miocene pleuronectid fish of the genus *Hippoglossoides* from Tokoro, Hokkaido, Japan.
- Akio Hirai: Fine structures of the egg membranes of some pleuronectiform fishes.
- Keiichi Matsuura and Yoshihisa Shiobara: An undescribed triggerfish collected from the Ryukyu Islands.
- Kensaku Azuma, Izumi Kinoshita, Shinji Fujita and Isao Takahashi: Ecology of larval and juvenile ayu, *Plecoglossus altivelis* occurring in surf zones of Tosa Bay.—VII Seasonal, annual and local variations in the length frequency.
- Shinji Fujita, Izumi Kinoshita, Isao Takahashi and Kensaku Azuma: The daily age and growth of larval and juvenile temperate bass, *Lateolabrax japonicus*, in the Shimanto estuary, Japan.
- Hiroshi Kawase, Noritaka Mochioka and Akinobu Nakazono: Settlement of juvenile *Cromis notatus notatus* and daily growth increments in otolith.
- Nobuhiko Mizuno and Seiichi Matsui: Diel changes of larval drift in *Leucopsarion petersi*.
- Toru Nagasawa: Planktonic stages of pointhead flounder, *Cleisthenes pinetorum herzensteini* in the northern part of the Japan Sea.
- Motofumi Kimura, Kiyooki Kanashiro and Tetsushi Senta: Juveniles and young fishes attracted by a fish lamp in the coastal area of Okinawa Island, Japan.
- Shigeru Nakano, Yukinori Tokuda and Susumu Tanaka: Life history of lake run and stream resident Japanese charr in an artificial lake.
- Toshiro Saruwatari, Takanobu Shimazu and Muneo Okiyama: On the movement and migration of the Shirauo (*Salangichthys microdon*) in a brackish lake, Lake Hinuma.
- Naohiko Takeshita and Seiro Kimura: Ecological distribution and migration of the Japanese barbel, *Hemibarbus barbus*, in the Chikugo river.
- Akira Goto: Sexul difference in life-history variation of the river-sculpin, *Cottus hangiongensis*.
- Mikio Azuma, Norikazu Harada, Nagayoshi Nakao, Fumiko Sakamoto and Hitoshi Iwanaga: The ecology of bluegill sunfish in Japan. I. Distribution and growth in Lake Kawahara-ohike.
- Naomi Tanaka and Shinsho Nishijima: Territoriality and diurnal migration of the vagabund butterflyfish *Chaetodon vagabundus*.
- Toshio Okazaki, Masakazu Watanabe, Kenya Mizuguchi and Kazumi Hosoya: On the two types of the dark chub (*Zacco temminckii*)—III. Genetic divergence.
- Masakazu Watanabe and Kenya Mizuguchi: On the two types of the dark chub (*Zacco temminckii*)—IV. Morphological variation of B-type (fluvial type).
- Kenya Mizuguchi, Masakazu Watanabe, Toshio Okazaki and Kazumi Hosoya: On the two types of the dark chub (*Zacco temminckii*)—V. The relation between A-type (lacustrine type) and *Leuciscus sieboldii*.
- Midoriko Kasama and Hiromu Kobayasi: Hybridization experiments in Cyprinida (VI). *Gnathopogon elongatus elongatus* ♀ × *Carassius carassius* ♂.
- Yuzuru Suzawa and Nobuhiko Mizuno: Genetic divergence of Japanese diploid loaches (*Cobitis* spp. and *Niwaella*), with special reference to inter-riverain divergence of *C. takatsuensis*.
- Toshio Okazaki, Kazumi Hosoya, Ken-ichi Numachi and Takanori Kobayashi: Genetic divergence among silurid fishes in lake Biwa.
- Eishige Komiyama: Spawning condition in chum salmon.
- Kei-ichirou Iguchi and Motoyoshi Yamaguchi: Effects of food supply on the reproductive charac-

ters of the Ayu *Plecoglossus altivelis*.
 Yasunori Sakurai: Comparison of reproductive characteristics between Pacific cod and Atlantic cod.
 Hiroyuki Munchara, Kenji Shimazaki and Kazunori Takano: Reproductive habit of the cottid fish, *Blepsias cirrhosus*.
 Yasunobu Yanagisawa, Yasuo Niimura and Katsuki Nakai: Lunar periodicity in the spawning of cichlid fishes.
 Syozo Hioki, Katsumi Suzuki, Hiroaki Miyagi, Takayuki Miyanaga and Shigeru Yamazaki: Reproductive behavior, egg and larval development of the pomacanthine, *Centropyge vrolicki*, in an aquarium.
 Tetsuo Kuwamura, Yutaka Yogo and Yasuhiro Nakashima: Reproductive ecology of a coral-dwelling goby, *Paragobiodon echinocephalus*, at Sesoko Island, Okinawa.
 Yutaka Yogo, Yasuhiro Nakashima and Tetsuo Kuwamura: Sex change in both directions in the monogamous goby, *Paragobiodon echinocephalus*.
 Toshihiro Takakusu and Nobuhiko Mizuno: Synchronized egg hatching by the parental male of the freshwater gobies, genus *Rhinogobius*.
 Tomoki Sunobe and Akinobu Nakazono: Mating system and sex change of the gobiid fish *Trimma okinawae*.
 Toshio Tsutsumi: Spawning habit of the puffer, *Fugu pardalis* (Temminck et Schlegel), observed at Miura Peninsula.
 Hisao Hamaguchi: Reproductive behavior of *Canthigaster rivulata* in the field.
 Yoshiharu Honma, Shunya Oka, Toshihiko Iwanaga and Tsuneo Fujita: Immunohistochemical demonstration of urotensin I and II in the caudal neurosecretory system of the white sturgeon, *Acipenser transmontanus*.
 Akira Chiba and Yoshiharu Honma: Pericardial lympho-hemopoietic system in the white sturgeon, *Acipenser transmontanus*.
 Takashi Asahida and Hitoshi Ida: DNA contents of some elasmobranchs.
 Eimitsu Tamura, Yoshiharu Honma and Nobuhiko Taniguchi: Hemopoietic and endocrine organ system in the triploid Ayu *Plecoglossus altivelis*.
 Kazuhiko Aoyagi and Yutaka Kojima: Induction and developmental capacity of non-nucleated embryos in coho salmon.
 Jun Kita and Yasuo Itazawa: Vascular system and microcirculation in the spleen of rainbow trout *Salmo gairdneri* observed by the microcorrosion casting method.
 Kazuhiko Tsuneki and Yutaka Koshida: A survey of the presence or absence of the saccus vasculosus in teleosts.

Shin Oikawa, Tatsusuke Takeda and Yasuo Itazawa: Change in the optimum concentration of MS-222 for the porgy with growth.
 Taketo Fujii: Position of the juvenile-hermaphroditism in the variational process of the fish sexuality from hermaphroditism to gonochorism.

4. 1989 年度第 1 回編集委員会

4 月 1 日 12:00-13:30. 編集委員 17 名が出席し、編集上の諸問題について審議・検討した。

5. 懇親会

3 月 31 日 17:30-19:00. 日本出張中の上海大学伍汉霖教授を含む 100 名が参加した。参加者数が主催者の予想を大幅に上回り、会場は大混雑となった。また料理の量も十分とは言いがたい状況に陥ったが、飲み物を急遽追加注文するなどして、大盛況のうちに親睦と意見の交換が行われた。

会 員 数

(1989 年 3 月 1 日現在)

	国 内	国 外	計
個人会員	888(-4)	202(+6)	1,090(+2)
名誉会員	1(±0)	1(±0)	2(±0)
団体会員	68(+5)		68(+5)
賛助会員	5(±0)		5(±0)
購 読	111(-5)	122(+5)	233(±0)
寄 贈	9(±0)	10(-2)	19(-2)

() 内はこの 1 年間の増減数

個人会員数及び入退会者数の推移

年度	国 内			国 外			退会処分
	会員数	入会	退会	会員数	入会	退会	
82	913	50	26	144	17	0	33
83	935	45	20	148	7	4	0
84	956	46	26	151	17	1	0
85	971	44	29	185	21	1	0
86	895	26	22	196	13	2	91
87	892	30	31	196	8	4	0
88	888	49	27	202	13	4	21
89							(29)

会員数は 3 月上旬、入退会者数は 3 月末日に集計しているため、各年度の入会者数と退会者数の差し引きと会員数の増減とは必ずしも一致しない。1988 年度末の集計では 28 名が退会処分の予定であったがその後 7 名の会員から送金があり、実際の退会処分者数は 21 名にとどまった。

日本魚類学会 1988 年度収支決算

(自 1988 年 3 月 1 日至 1989 年 2 月 28 日)

収入の部 (単位: 円)			
科 目	88年度 予算額	88年度 決算額	予一決
会 費	6,964,800	7,543,131	-578,331
正会員会費	5,670,000	6,147,000	-477,000
団体会員会費	718,200	847,400	-129,200
賛助会員会費	171,000	60,000	111,000
外国会員会費	405,600	488,731	-83,131
購 読 料	1,365,840	1,486,500	-120,660
国 内	720,000	810,000	-90,000
国 外	645,840	676,500	-30,660
Back No. 収入	200,000	147,910	52,090
広 告 料	120,000	200,000	-80,000
著者負担印刷代	850,000	1,221,274	-371,274
学会補助金	2,040,000	2,000,000	40,000
雑 収 入	350,000	578,744	-228,744
入 会 金	30,000	40,000	-10,000
会誌発行引当金			0
戻し入れ収入	510,000	510,000	0
計	12,430,640	13,727,559	-1,296,919
前年度繰越金	3,290,526	3,290,526	0
合 計	15,721,166	17,018,085	-1,296,919
支出の部			
科 目	88年度 予算額	88年度 決算額	予一決
会 誌 発 行 費	7,500,000	8,379,262	-879,262
名 簿 作 成 費	0	0	0
編 集 費	800,000	800,000	0
会 誌 発 送 費	580,000	564,500	15,500
役 員 会 合 費	20,000	0	20,000
年 会 費	400,000	403,313	-3,313
シンポジウム費	120,000	120,000	0
消 耗 品 費	20,000	9,590	10,410
通 信 費	600,000	601,159	-1,159
諸 印 刷 費	300,000	258,100	41,900
人 件 費	0	0	0
交 通 費	90,000	201,140	-111,140
業 務 委 託 費	1,900,000	1,975,323	-75,323
会 員 計	1,300,000	1,375,323	-75,323
会 計	600,000	600,000	0
什 器 備 品 費	30,000	0	30,000
協 賛 金	20,000	0	20,000
雑 費	400,000	332,741	67,259
予 備 費	100,000	0	100,000
会誌発行引当金	510,000	500,000	10,000
名簿作成積立金	100,000	100,000	0
計	13,490,000	14,245,128	-755,128
次年度繰越金	2,231,166	2,772,957	-541,791
合 計	15,721,166	17,018,085	-1,296,919

貸借対照表

(1989 年 2 月 28 日現在)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産		流動負債	
預 け 金	1,813,837	未 払 金	0
小 口 現 金	136,623	前 受 会 費	162,400
未 収 入 金	411,150	会 誌 発 行 引 当 金	500,000
立 替 金	-426,253	名 簿 作 成 積 立 金	300,000
定 期 預 金	1,800,000	次 年 度 繰 越 金	2,772,957
		前 年 度 繰 越 金	3,290,526
		今 年 度 剰 余 金	-517,569
合 計	3,735,357	合 計	3,735,357

財 産 目 録

(1989 年 2 月 28 日現在)

資産の部			
科 目	摘 要	金 額	
流動資産			
預 け 金	(財)日本学会事務センター	1,813,837	
小 口 預 金	学会手許金	136,623	
未 収 金		411,150	
	広 告 料	170,000 ⁰	
	著者負担印刷代	241,150	
立 替 金	学会誌別刷代	-426,253	
定 期 預 金	日本信託銀行銀座支店	1,800,000	
合 計		3,735,357	
負債の部			
科 目	金 額		
流動負債			
前 受 会 費		162,400	
会 誌 発 行 引 当 金		500,000	
名 簿 作 成 積 立 金		300,000	
合 計		962,400	
繰越金			
科 目	金 額		
前 年 度 繰 越 金		3,290,526	
今 年 度 欠 損 金		-517,569	
合 計		2,772,957	

1989 年 度 予 算

(自 1989 年 3 月 1 日 至 1990 年 2 月 28 日)

収入の部 (単位: 円)

科 目	88年度 決算額	89年度 予算額	
会 費	7,543,131	7,088,600	
正会員会費	6,147,000	5,670,000	900名× ¥7,000× 90%
団体会員会費	847,400	798,000	70件× ¥12,000× 95%
賛助会員会費	60,000	171,000	9口× ¥20,000× 95%
外国会員会費	488,731	449,600	180名× (4,000円- 1,300円)× 80%
購 読 料	1,486,500	1,440,000	20名×(4,000 円-200円)× 80%
国 内	810,000	792,000	110件× ¥12,000× 60%
国 外	676,500	648,000	120件×(72\$ ×¥125)× 60%
Back No. 収入	147,910	200,000	
広 告 料	200,000	120,000	
著者負担印刷代	1,221,274	1,000,000	
学 会 補 助 金	2,000,000	2,000,000	
雑 収 入	578,744	450,000	
入 会 金	40,000	30,000	
会誌発行引当金 戻し入れ収入	510,000	500,000	
計	13,727,559	12,828,600	
前年度繰越金	3,290,526	2,772,957	
合 計	17,018,085	15,601,557	

支出の部

科 目	88年度 決算額	89年度 予算額
会 誌 発 行 費	8,379,262	7,800,000
名 簿 作 成 費	0	0
編 集 費	800,000	800,000
会 誌 送 付 費	564,500	600,000
役 員 会 合 費	0	20,000
年 会 費	403,313	400,000
シ ン ポ ジ ウ ム 費	120,000	120,000
消 耗 品 費	9,590	20,000
通 信 費	601,159	600,000
諸 印 刷 費	258,100	300,000
人 件 費	0	0
交 通 費	201,140	200,000
業 務 委 託 費	1,975,323	1,900,000
什 器 備 品 費	0	20,000
協 賛 金	0	20,000
雑 費	332,741	400,000
予 備 費	0	50,000
会誌発行引当金	500,000	500,000
名簿作成積立金	100,000	100,000
計	14,245,128	13,850,000
次年度繰越金	2,772,957	1,751,557
合 計	17,018,085	15,601,557